

2009 年度 総会挨拶

大不況を乗り越え 車体業界に再びの繁栄を

本日は、社団法人日本自動車車体工業会の第 39 回通常総会を開催するにあたって会員の皆様方にはかくも多数ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

さて日本経済は昨年秋のリーマンショック以降急減速し、100 年に一度の世界同時不況と言われる程まで悪化してしまい、国内自動車登録台数は 289 万台と 37 年前のレベルにまで落ち込んでしまいました。

更に商用車の落ち込みは大きく、中大型貨物車は 6 万 3 千台と昨年度比で 26% の減少、特に直近の 3 カ月は 50% 近い減少となっています。

当会会員の 2008 年度生産台数をみますと前年度比で 14% 減の 242 万台となっておりますが、これも直近の 3 カ月で見ますと約半減という厳しい台数となっています。

当会の会員状況をみますと、昨年度は 5 社入会、7 社退会と 2 社減少となりましたが、退会理由は架装業からの撤退や倒産などでした。しかしながら非会員会社の規模縮小のために当会の会員カバー率は前年比で 1.4% 上昇し 95.7% となり、日本の車体業界のほとんどをカバーできていることが確認できました。

このような中、昨年度、当会は

- (1) 環境対応自主取組みの推進
- (2) 安全対応活動の推進
- (3) 会員への支援サービスの充実
- (4) 当会の活性化
- (5) 創立 60 周年記念事業

の 5 項目を重点活動として取り組んできました。

(1) 「環境対策の推進」では、CO₂ 削減活動を 2008 年度から自動車工業会と一体化しました。これは当会生産の約 9 割が自動車工業会会員からの

委託であるため、相互に連携を取り、相乗効果を狙ったもので、目標も一層高くし「2010 年の排出量を 1990 年比 22% 削減」としました。最新の集計結果では、会員各位のご努力により目標達成目処も立ちつつあります。

塗装工程での VOC の削減は、「2010 年原単位を 2000 年比 50% 削減の目標に対し 2008 年度の集計では 42.6% 削減」と順調に進んでおり、産業廃棄物の削減では「1990 年度比 83% 削減」の目標を達成させることができました。

また架装車両の環境対応としてリサイクルしやすい車体の普及や鉛や六価クロムなどの環境負荷物質の使用削減などに取組んできました。

(2) 安全対策の推進では、リアバンパー取り付け位置やリアナンバープレート視認性改善への意見反映、また再帰反射材の取り付け、リアバンパー強度アップなどの法規変更への円滑な対応を進めるとともにコンプライアンス最優先の徹底活動を進め大きな成果をあげることができました。

(3) 「会員への支援サービスの向上」に関しては、昨年度は特に中小企業の皆様へのいろいろな情報提供を充実させてきました。ご存知のように年度後半から、資金繰り対策として信用保証制度の充実や休業時の雇用調整補助金制度の充実など、めまぐるしく制度改訂がありましたが、タイムリーに皆様に展開し、説明会を実施や相談窓口の設定等を行いました。

(4) 当会活動の活性化に関しては ①部会活動充実化 ②支部活動充実化 ③事務局強化 ④広報活動強化 ⑤会員カバー率の向上に取り組む、いろいろな面で成果が出せたと判断しております。

また当会は、昨年、創立 60 周年という人間で言えば還暦という記念すべき節目を迎えることができました。これもひとえに皆様の長年のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。昨年秋にはこの記

念事業として、歴史的に価値のある車体技術をまとめた「歴史に残る 働くクルマたち」という記念史の発行や記念の会員大会を盛大に開催することができました。

なお今年 1 月には経営環境の急激な悪化に伴ない、急遽正会員の会費低減を決定し、1 社当たり平均 11 万円を返却するとともに、緊急費用削減活動も進めましたが、なんとか収入に見合った決算とすることもできました。

さて、本年は当会の役員改選の年になっており、私は今回、会長職を辞することになりました。

新会長挨拶

「会員支援サービスの充実」を最優先に

高木 茂 (日産車体㈱・取締役社長)

会員皆様のご推挙により車体工業会の会長を務めることになりました高木でございます。60 年のすばらしい歴史をもった団体の長ということで、私にはたいへん荷が重い役目ですが、田中副会長、比企副会長 安田副会長はじめ会員の皆様全員のご協力を得ながら、精一杯運営していきたいと思っております。

久保地前会長におかれましては、高い理想と先見性をもって車体工業会を牽引いただき、先ほどの事業報告にもありましたように多くの成果をあげることができました。たいへん感謝申し上げますとともに今後とも新しい立場でのご指導をよろしくお願いいたします。

さて、一部では今年度後半からは景気も回復する見通しも出ておりますが、商用車国内市場はまだまだ減少が続くと予測されています。

この厳しい環境の中、先ほどご審議いただきま

この 2 年間の任期中はジェットコースターのよう激しい環境変化でありましたが、多少なりとも成果をあげることができたと自負しております。これもひとえに会員の皆様のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げる次第であります。

しかしながらやり残したことも多数ございまして、最大の課題はこの大不況を乗り越え、車体業界にふたたび繁栄をもたらすことと思っております。今後とも新しい役員を中心に会員の皆様が一丸となってこの難局を乗り越えていただきますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。



会長 久保地理介
(トヨタ車体㈱・相談役)



したように、当会は「会員支援サービスの充実」を最優先課題として取り組めます。

当会活動の大前提が「会員企業の繁栄」であることを念頭におきまして、皆様に一層役立つ車体工業会を目指して活動を進めてまいります。

具体的には久保地前会長が推進された「業界標準の作成」や「新規部品の共通化・共同開発によるコスト低減」、あるいは技術的な規制緩和の要請活動など前向きな事業を継続、充実させていきたいと考えております。

会員の皆様方には、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。